

演題番号 セッション名	質問・ご意見	回答
シンポジウム1	<p>SY1-1「新型コロナウイルス感染症流行下における実務実習」</p> <p>遠隔実習をできるだけ参加・体験型実習に近づけるとのことですが、具体的にどのような対応をおこなえばよいのかご教示いただけますようよろしくお願いいたします。私といたしましては、遠隔実習では解決できない問題と考えます。医療機関および指導薬剤師の負担も考えた実効性のある回答を望みます。</p>	<p>ご質問いただき、ありがとうございました。 先生のご指摘どおり、「遠隔実習では解決できない問題」が多々ございます。すべての遠隔実習が参加・体験型実習になるとは、思っておりませんし、不可能なことも多いと考えます。遠隔実習の実例として、Zoomなどを用いたスモールグループディスカッションや手技・指導などの動画などをイメージしています。また、シンポジストの先生も言及されていましたが、症例のシナリオも有効であると考えています。 「遠隔実習をできるだけ参加・体験型実習に近づける」という言葉が不十分であったかもしれません。 「遠隔実習で代替可能なものは、できるだけ参加・体験型実習に近づける」と訂正させていただきます。 よろしくお願いいたします。</p>
A-23	<p>リラグルチドを1.2mg/日以上に増量後の血糖改善効果及び体重変動の検討</p> <p>非常にためになるお話でした。ありがとうございます。質問ですが層別解析のところで、HbA1cが8%以上の群と推定罹患期間が10年未満の群はどれくらい重なっていましたか？というか、どちらの群にも属していた患者は何人くらいいたのでしょうか？よければ教えてください。</p>	<p>恒川先生 この度は大変お忙しい中、数あるセッションの中から私の演題を拝聴し、また、ご質問を頂きありがとうございます。 ご質問頂いた「HbA1c 8%以上かつ推定罹病期間10年未満の患者数」ですが、両群に属していた患者数は9名でした。よって、10年未満の患者群の殆どがHbA1c 8.0%以上であったという結果でした。</p>
A-65	<p>A-65 岐阜県総合医療センターにおけるポリファーマシーへの介入状況と今後の課題</p> <p>素晴らしい取り組み参考になりました。入院時の薬剤師のアプローチについて確認したいことがあります。相談事項に対してのみ主治医へ伝えるあるいは提案しているのでしょうか？高齢者リスク評価したうえででの中止などの提案も合わせておこなっているのでしょうか？当院は、ポリファーマシー対策が遅れているためご教示いただければ幸いです。</p>	<p>ご質問ありがとうございます。外来薬剤師が外来時に薬の相談内容を聴取していますが、病棟薬剤師も再度薬の相談内容を聴取し、外来時に聴取した内容以外の相談事項があった場合にも対応しています。当院でマニュアル化した方法は特になく、各病棟薬剤師が患者さんの症状・アドヒアランス・薬の管理状況等を総合的に判断し、対応しています。</p>
B-1	<p>B-1 クリックケミストリーを利用したカルバグルコース型SGLT阻害薬の創製</p> <p>今回スクリーニングされた様な、ビアリルメタン骨格のうち糖部位に結合する芳香環がトリアゾールである化合物のSGLT2阻害活性は、本研究で初めて確認されたものですか？それとも発想の根拠になるような先駆化合物がありましたか？よければ教えてください。</p>	<p>今回スクリーニングされた様な、ビアリルメタン骨格のうち糖部位に結合する芳香環がトリアゾールである化合物のSGLT2阻害活性は、本研究で初めて確認されたものですか？それとも発想の根拠になるような先駆化合物がありましたか？よければ教えてください。</p>

※公開に際し個人名(一部を除き)は伏せさせていただきます

演題番号 セッション名	質問・ご意見	回答
B-75	<p data-bbox="309 242 1653 276">B-75 SARS-CoV-2スパイクタンパク質F490S置換の変異検出によるラムダ株の迅速なスクリーニング試験法の構築</p> <p data-bbox="309 464 1196 555">本研究ではF490Sをターゲットとしていますが、F490の他変異や、その近辺、特にプライマーと重複していない489, 491番目のアミノ酸、それもT>C変異の物も区別して検出することができるのでしょうか</p>	<p data-bbox="1214 325 1615 359">ご質問頂きありがとうございます。</p> <p data-bbox="1214 359 2123 450">489や491の変異については、検討していないので分かりません。しかし、おそらくそのような変異があれば今回の解析に影響があると考えますが、489や491置換を持った変異株の報告はないため、本検討では注目していません。</p> <p data-bbox="1214 450 2123 694">本法は、スクリーニング試験に有用な方法を開発することを目的にアッセイ法を開発しました。HRM法では、(例えば489や491に変異があつて)予想外の変異があるものも、融解曲線が野生型とは異なるため、「野生型ではない」という結果として得られます。そのような結果が得られた後は、既存のスクリーニング試験と同様に、NGSやサンガー法によって塩基配列を決定するという検査スキームを想定しております。484置換に関しては、その置換を有する変異株が多く存在しているため、今回は、敢えて影響がないように系を作製しました。484のスクリーニング試験法は既に我々の確立した系があります。</p>